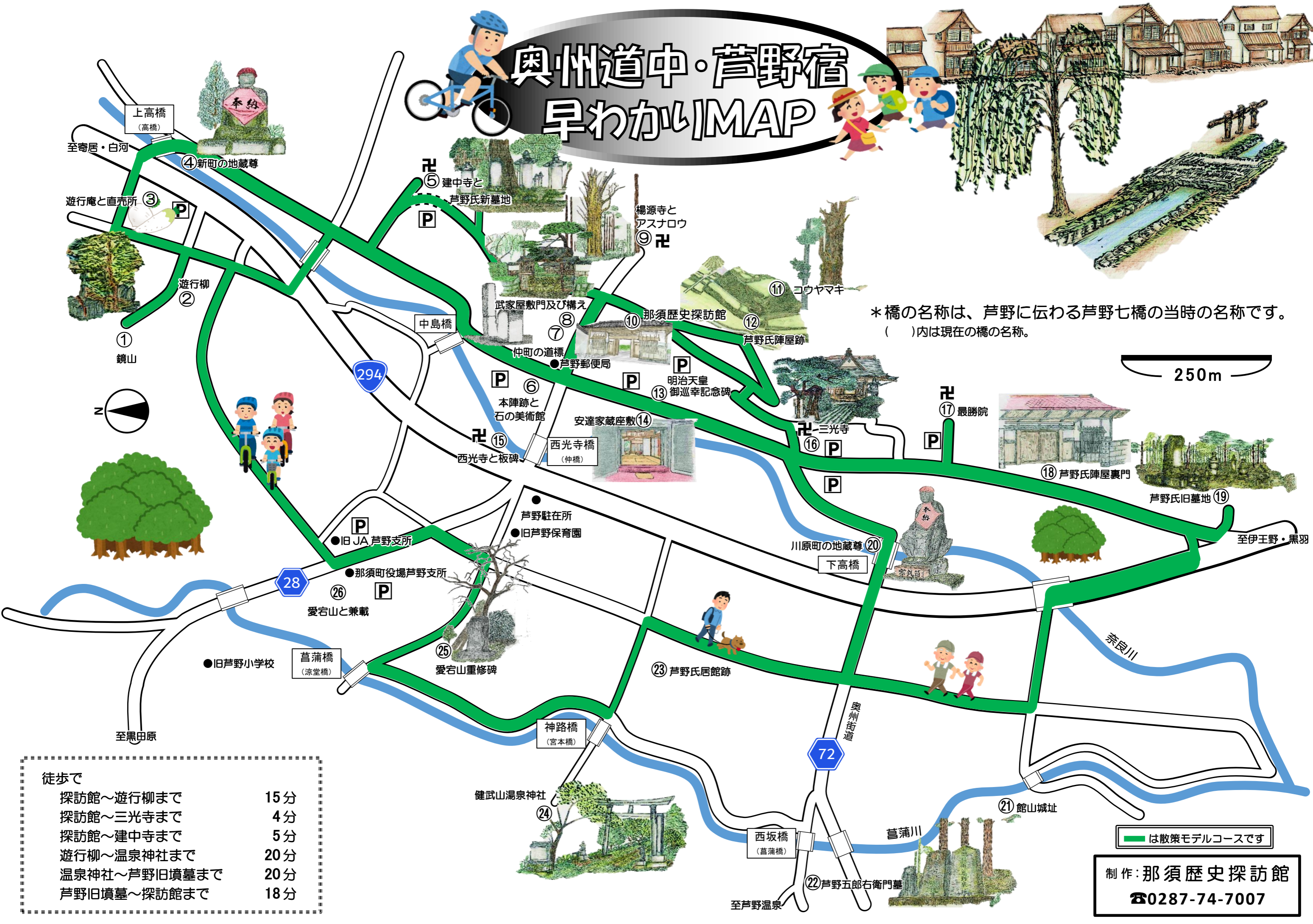


奥州道中・芦野宿 早わかりMAP



* 橋の名称は、芦野に伝わる芦野七橋の当時の名称です。
()内は現在の橋の名称。

250m

徒歩で

探訪館～遊行柳まで	15分
探訪館～三光寺まで	4分
探訪館～建中寺まで	5分
遊行柳～温泉神社まで	20分
温泉神社～芦野旧墳墓まで	20分
芦野旧墳墓～探訪館まで	18分

は散策モデルコースです

制作：那須歴史探訪館
☎0287-74-7007

奥州道中と芦野宿

＝江戸の面影と芭蕉の足跡を訪ねて＝

ようこそ芦野宿へおいでくださいました。
芦野宿は、江戸時代に五街道の一つとして整備された奥州道中の宿駅として、また交代寄合旗本芦野氏の城下町として発展してきました。

「七橋、八坊、三家老」「芦野八景」に代表される芦野を散策してみてください。
自然の中に佇む史跡をはじめとする名所、旧跡が皆様を十分に満足させてくれることでしょう。

① 鏡山 芦野八景の一つで、その形が鏡餅に似ている、岩の立つ形が鏡のようであることから山の名前になったといわれています。麓には、上の宮湯泉神社が建ち、芦野氏の信仰があり、境内には、町の文化財オオイチョウの大木が立っています。

② 遊行柳 時宗 19 世尊酷上人がこの地を訪れたとき、柳の精が老翁となって現れました。上人が念仏を唱えると老翁は成仏し、忽然と姿を消したといわれています。謡曲「遊行柳」に出てくる一節です。西行の歌碑、芭蕉、蕪村の句碑が建ち、往時の風情を感じさせています。(国指定)

③ 遊行庵と直売所 この地を訪れる人たちの憩いの場・遊行庵と地元産品の販売を行う直売所があります。芦野産のコシヒカリや野菜、花、自家製の漬物など芦野の味と人柄に触れてみてください。特に芦野産のもち米は「黄金餅」と呼ばれる逸品です。

④ 新町の地蔵尊 享保2年の建立で、芦野宿へ疫病が入るのを防ぐために現在の遊行庵の所に建てられたものです。大正の頃に道路拡張のため現在地へ移転されました。

⑤ 建中寺と芦野氏新墳墓 建中寺は、芦野家の菩提寺でした。現在ある芦野家の墓は、19代資俊からのもので、それ以前は旧墳墓として唐木田の竹林の中にあります。江戸も中期になると芦野の当主は江戸在府が多くなり、亡くなると駒込千駄木にあった摠禅寺に葬られ、遺髪などが芦野に埋葬されるようになりました。(町指定)

⑥ 本陣跡と石の美術館「ストーンプラザ」 芦野宿の本陣跡は、現在那須屋商店とストーンプラザになっています。ストーンプラザは、地場産「芦野石」を使った石の美術館で、那須歴史探訪館と同じ隈研吾氏の設計によるものです。直線美を巧みに配した構成と茶室、展示室、多目的ホールなど芦野石の特長を取り入れた施設です。

⑦ 仲町の道標 現在郵便局が建っている場所は、江戸時代には番所があり大手を守る場所でしたが、明治に入り町村制が施行されると芦野町役場の所在地へと変わりました。この正面に道路元標があります。「芦野町道路元標」です。大正時代の旧道路法及び同法施行令により設置されたものです。

⑧ 旧平久江家門と構え 江戸時代の武家屋敷の遺構を今に伝える貴重な構造物です。平久江家は芦野氏陣屋の大手口にあたり、上級武士に許可された棟門の形式をとっています。大手の道と屋敷の境には石垣を積み、門内にも左側から延びた石垣が直角に正面をさえぎり、枡形を形成しています。(町指定)

⑨ 揚源寺とアスナロウ 天台宗で、東蘆山地蔵院揚源寺といえます。境内に向かって左手奥、溪流が流れる所に不動明王が安置されており、その後ろに御神木のアスナロウの木があります。樹高 21.6m、目通り周囲 4.5mあり、樹齢 600 年と推定されています。アスナロウはひのき科の常緑高木で寒冷地の樹木であり、このアスナロウは分布上南限に近く、当地方のアスナロウとしては珍しいものです。境内には芦野小学校の前身「亮道館」の記念碑や句碑、歌碑が建っています。(町指定)

⑩ 那須歴史探訪館 平成 12 年10 月 12 日に落成、オープン。「道」をテーマに通史、トピックスギャラリーなど那須町の歴史を展示、紹介しています。場所は、芦野城の三の丸に位置し、通称根古屋と呼ばれる地区にあります。敷地内には、地元芦野に関係する勝海舟碑文の石柱、芦野氏陣屋裏門、武家屋敷の蔵を配し、展示館は近代的なガラスと鉄骨造りで、地場産芦野石と烏山和紙、藁左官の材質を利用した構成をとっています。那須町の歴史をグラフィックや映像で楽しむことができます。

⑪ コウヤマキ 芦野城の二の丸東方に三つの郭があり、その二番目の郭に樹高約 24m、目通り周囲約 5mあり、推定樹齢 400～500 年のコウヤマキがあります。芦野資興がこの地に築城した記念樹と伝えられています。(県指定)

⑫ 芦野氏陣屋跡 芦野氏の居城跡で、通称・御殿山、桜ヶ城「芦野城」とも呼ばれています。築城は、天文年間(1532～55)の芦野資興の代と伝えられています。本丸、二の丸、三の丸があり、二の丸の東側には三つの郭が空壕によって仕切られています。江戸時代には交代寄合旗本芦野氏の陣屋がありました。面積は約3畝で八溝自然公園の一角をなし、桜の名所で知られています。(町指定)

⑬ 明治天皇御巡幸記念碑 仲町通りのほぼ中央に明治天皇東北巡幸記念として建てられた碑があります。この場所は、芦野宿の間屋跡地であり、巡幸の際の御宿泊所でもありました。

⑭ 安達家蔵座敷 仲町中、丁子屋の屋号を持つ安達家は、江戸時代から続く旅籠で、「うなぎ」で知られた老舗です。蔵座敷は、八畳二間があり、床の間や違い棚など意匠・構造ともに優れた造りです。(町指定)

⑮ 西光寺と板碑 浄土宗で無量山西光寺といえます。境内には芦野家の家臣であった築瀬家、加藤家などの墓地があります。奥州板碑や忍藩土の官修墳墓が確認されています。

⑯ 三光寺 三光寺は別名聖天様の名前で知られ、歓喜天を祀るお寺でもあります。聖天の文字の書かれた掛軸は、白河藩主松平定信公直筆のものです。

⑰ 最勝院 曹洞宗で、米沢山最勝院金剛峰寺といい、江戸初期に建中寺に代わるまで芦野家の菩提寺でした。芦野氏旧墳墓は今も当寺が管理しています。境内には芦野家家臣の大塩家の墓地や戊辰戦争でなくなった阿州藩土の官修墳墓などがあります。

⑱ 芦野氏陣屋裏門 御殿山にあった芦野氏陣屋裏門を、大塩家が買い受け現在の地へ移築しました。門の造りは、正面向かって右側は中間部屋で、左側は廁になっていました。旗本芦野氏の遺構を伝えるものです。(町指定)

⑲ 芦野氏旧墳墓 芦野氏旧墳墓は、芦野宿の南はずれ唐木田との境にあり、室町時代の芦野資方から江戸初期までの芦野氏代々の墓地と伝えられ、五輪塔数基・自然石碑・笠付位牌形など、江戸初期の年号を持つ墓碑が確認されています。(町指定)

⑳ 川原町の地蔵尊 奈良川の東、当時の芦野宿内に入ったところ、橋のたもとに片足を折って座った半伽様式のお地蔵様が鎮座しています。享保 12 年の建造で、新町の地蔵尊と対をなしています。宿内に疫病が入るのを防ぐのをお地蔵様に託したものでしょう。この地は黒羽街道と奥州街道の分岐点に位置しています。

㉑ 館山城址 芦野氏の山城の一つ。芦野氏居館跡(通称熊野堂)から室町中期に堅固な館山に築城、移転したものと考えられています。西坂の南方にある二つの岩山を利用した山城で、尾根や中腹に土塁の跡が見られます。

㉒ 芦野五郎右衛門墓 西坂田中耕逸氏裏手に墓碑が三基並んで建っています。摩滅がひどく文字を判読することは困難ですが、芦野五郎右衛門の墓と記録されています。何れも江戸初期のものです。

㉓ 芦野氏居館跡 吾妻鏡 1256 年の条「奥の大道夜盗・・・」に那須肥前前司、福原小太郎と一緒に「葦野地頭」の名前が出てきます。葦野＝芦野であり、芦野を支配した武士が居り、この武士が住んでいたところが芦野氏居館です。(町指定)

㉔ 健武山湯泉神社 芦野宿より西方に位置する健武山湯泉神社は、芦野氏が代々敬ってきた神社で、室町時代に那須与一の五世の孫資忠の三男資方が芦野の領主となって勧請したものと考えられています。

㉕ 愛宕山重修碑 芦野基幹集落センター南側、旧芦野小学校への通学路脇の畑中に芦野石の碑が建っています。碑文は摩滅がひどく判読することはできませんが、愛宕山を中心とした周囲の景観を賞賛したもので、芦野氏家臣小林準作撰文によるものです。

㉖ 愛宕山と兼載 芦野基幹集落センター裏手(西)にある小高い山を愛宕山といえます。愛宕山は芦野八景に選ばれた景勝の地で知られ、連歌師兼載が芦野に庵を結び住んだ所と伝えられています。今も字名に兼載松の地名が残っています。連歌師宗匠宗祇がこの地を訪れ、兼載との対話の中で、宗祇が困炉裏の灰を火箸で掻き立てながら、「かきならず灰は海路の塩に似て」と上の句を口吟すると兼載は直ちに「いろりは海かおきの見えける」と下の句を連ねたり、との逸話が残っています。

※ このマップは、芦野宿の史跡めぐりの案内マップです。
詳しくは、那須歴史探訪館(Tel.0287-74-7007)へお問い合わせください。